

1ヶ月以内と2~3ヶ月以内を合わせた3ヶ月以内の症例数は138例、21%であった。④ 6~12ヶ月以内と⑤ 13ヶ月以上を合わせた6ヶ月以上臥床期間がある症例は463例、71%である。

年代別と6ヶ月未満の群と6ヶ月以上の群との分布に有意の関連はなかった。

D. 患者の背景の考察

臥床する原因となった主な疾患は（複数回答可）、脳血管障害後遺症 363 例、28 %であり圧倒的に多かった。次いで、痴呆 152 例、12 %、骨関節疾患 9 %と続いた。

また、現在ある合併症としては尿路感染症が最も多く 179 例、21 %、呼吸器感染症が 160 例、19 %、高血圧症 13 %と続いた。糖尿病は 11 %であった。

障害の程度と褥瘡の関係は、ランク B とランク C（1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する）の両方を合わせると 94% であり、褥瘡を持つ症例においては 1 日中ベッドで過ごすものが多い。

年代別と障害の程度の間には分布の違いがあり、有意の関連がある。すなわち、70 歳以上で概ね自立している J と A ランクは、479 例中 17 例で 4 %、B ランクと C ランクは、462 例で 96 %であるのに対し、70 歳未満では J と A ランクは 10 %で多く、B と C ランクは 90 %で少なかった。

臥床期間は 3 ヶ月以内の症例数は 138 例、21%であり、6 ヶ月以上臥床期間があった症例は 463 例、71%である。

E. 褥瘡の詳細

1. 過去の褥瘡の部位 (多い順)

- (1) ⑥ 仙骨部 362 例、42%
(仙骨部で尾骨も合わせると、409 例、47%)
- (2) ⑮⑯ 下肢 左右合わせると 108 例、13%
- (3) ⑪⑫ 大転子 左右あわせて 92 例、11%
- (4) ⑦⑧ 腸骨稜 86 例、10%
- (5) ⑨⑩ 坐骨 左右の差はなく、左右合わせて 49 例、6%

褥瘡の発症の好発部位としては、仙骨部が 48% で最も多く、次いで下肢 13%、大転子 11%、腸骨稜 10% の順番であり、坐骨部は 6% であった。

2. 褥瘡の数 (多い順)

1) 数

- (1) 1ヶ所が 457 例、70%
- (2) 2ヶ所が 112 例、17%
- (3) 3ヶ所が 53 例、8%
- (4) 4ヶ所以上が 28 例、4%

褥瘡が 3ヶ所、4ヶ所以上あるものが 81 例で、12% もあった。これらは身体的にも非常に重症であることが推定される。

2) 深さ (多い順)

- (1) ステージⅢ、279 例、44%
- (2) ステージⅡ、192 例、29%
- (3) ステージⅣ、166 例、25%
- (4) ステージⅠ、15 例、2%

深さとしては、ステージⅢが 44%、次いでステージⅡが 29% であった。

3) 深さと部位との関連 (複数記入可、多い順)

A. ステージⅠ 小計 51 例

- (1) 腸骨稜 15 例、29 %
- (2) 仙骨部 14 例、27 %
- (3) 下肢 10 例、20 %
- (4) 大転子 4 例、8 %
- (5) 坐骨 1 例、2 %

B. ステージⅡ 小計 265 例

- (1) 仙骨部 167 例、63 %
- (2) 大転子 29 例、11 %
- (3) 下肢 22 例、8 %
- (4) 腸骨稜 17 例、6 %
- (5) 坐骨 5 例、2 %

C. ステージⅢ 小計 323 例

- (1) 仙骨部 224 例、70 %
- (2) 大転子 32 例、10 %
- (3) 下肢 23 例、7 %
- (4) 腸骨稜 17 例、5 %
- (5) 坐骨 9 例、3 %

D. ステージⅣ 小計 195 例

- (1) 仙骨部 134 例、69 %
- (2) 大転子 22 例、11 %
- (3) 腸骨稜 8 例、4 %
- (4) 坐骨 6 例、3 %
- (5) 下肢 6 例、3 %

3. 体位変換方法の変更 (褥瘡発症日前後における変更)

- (1) なし 302 例、46%
- (2) あり 323 例、49%

70才以上の症例をみると

(1) なし 225 例、46%

(2) あり 238 例、49%

各項目毎における70才以上の症例の割合

(1) なし 302 例中、225 例、75%

(2) あり 323 例中、238 例、74%

体位変換の変更（褥瘡発症前後における変更）がありは 49%で、褥瘡発症前に体位変換があったことがわかる。

4. 褥瘡の状態

1) 大きさ（面積）（多い順）

(1) 0～10 cm²、304 例、46 %

(2) 10～20 cm²、118 例、18 %

(3) 20～30 cm²、96 例、15 %

(4) 30～40 cm²、33 例、5 %

(5) 50～60 cm²、14 例、2 %

2) 深さ（多い順）

(1) 皮膚全層にわたる損傷（ステージⅢ）250 例、39 %

(2) 真皮に及ぶ損傷（ステージⅡ）185 例、28 %

(3) 筋肉や骨に及ぶ損傷（ステージⅣ）170 例、26 %

(4) 表皮に損傷なし。但し、指で押して白くならない紅斑がある。13 例、2 %

褥瘡が非常に深い症例が 170 症例、26%もあるということは、治療の際にどのような治療法を選択すべきかを定める必要がある。また、初期の壊死組織があるために不明が 36 例、5%あり深さが判定できるまでに、かなりの日数を要する。

3) 創辺縁部 (多い順)

- (1) 輪郭がはっきりしており、辺縁が創底に付着していない
196 例、30%
- (2) 輪郭がはっきりしており、辺縁が創底に付着している
163 例、25%
- (3) 輪郭がはっきりしているが、辺縁の創底への付着がルーズで
しかも辺縁が肥厚している 98 例、15%

4) ポケット (多い順)

- (1) なし 353 例、54%
- (2) 2 cm 未満 119 例、18%
- (3) 2~5 cm 未満 98 例、15%
- (4) 10 cm 以上 32 例、5%

奥行が 10 cm 以上ある褥瘡が 32 例、5%もあるのは治療や看護の際に非常に重大な課題を提起している。

5) 壊死組織 (多い順)

- (1) なし 390 例、60%
- (2) 薄い壊死組織 152 例、23%
- (3) 比較的ルーズに付着している厚い壊死組織がある 55 例、8 %
- (4) 強く付着している厚い壊死組織がある 53 例、8%

6) 壊死組織の大きさ (多い順)

- (1) なし 396 例、61%
- (2) 創面の 25% 未満 133 例、20%
- (3) 創面の 25~50% 未満 42 例、6%
- (4) 創面の 50~75% 未満 37 例、6%

75~100%近く壊死組織がある症例と、全部が厚い壊死組織がある症例を合わせて79例、12%を占める。

壊死組織がある全症例は259例、40%であり、壊死組織除去の必要性をもう少し強く訴える必要がある。

7) 滲出液の性質 (多い順)

- (1) 漿液 286例、44%
- (2) 希薄な膿様 169例、26%
- (3) なし 136例、21%
- (4) だろだろとした膿様 62例、10%

8) 滲出液の量 (多い順)

- (1) 少量 331例、51%
- (2) 中等量 139例、21%
- (3) なし 122例、19%
- (4) 多量 60例、9%です。

9) 炎症 (多い順)

- (1) なし 462例、71%
- (2) 辺縁の3cm未満 128例、20%
- (3) 辺縁の3~9cm未満 30例、5%
- (4) 全身的に発熱がある 22例、3%

辺縁に少しでも炎症があった症例が169例、27%であり、褥瘡周辺に炎症が多いことに注意を向ける必要がある。

辺縁の18cm以上の範囲に発赤または腫脹があった症例が4例、1%あり非常に重症の感染症をひきおこしていることを推定させる。

全身的に発熱があるが、22例、3%もあり、感染が重度となった症例もあることを示している。

10) 周辺組織の浮腫 (多い順)

- (1) なし 502 例、77%
- (2) 創辺縁部にわずかに浮腫がある 123 例、19%
- (3) 創辺縁部から 4 cm 未満の範囲で、圧迫しても陥没しない程度の浮腫が見られる 24 例、4%
- (4) 4 cm 未満の範囲で、圧迫すると陥没する浮腫がみられる 5 例、1%

浮腫が少しでもあった症例は、153 例、24 %であった。
最も高度な浮腫がある症例が 5 例あり、そのうち 4 例が 70 才以上の症例であった。

11) 周囲組織の硬結 (多い順)

- (1) なし 459 例、70%
- (2) 辺縁部から 2 cm 未満に硬結がある 131 例、20%
- (3) 辺縁部全周にわたり 2 cm 未満に硬結がある 40 例、6%
- (4) 辺縁部全周にわたり 2 cm 以上の硬結がある 18 例、3%

褥瘡の潰瘍辺縁の硬結は約 30%に発生している。硬結の多くは線維化であり、慢性で治療が遅れている場合に出現することが多いことを考えると、褥瘡の 30%が治療に難渋していることを示唆している。

12) 肉芽組織 (多い順)

- (1) 明るい赤色の肉芽が 75~100%を占める 230 例、35%
- (2) 明るい赤色の肉芽が 25~75%未満を占める 134 例、21%
- (3) 明るい赤色の肉芽が形成がない 113 例、17%
- (4) 明るい赤色の肉芽が 25~75%未満を占める 100 例、15%
- (5) 治癒が近いので肉芽がない 70 例、11%

13) 上皮形成 (多い順)

- (1) 新生上皮 0% 218 例、33%
- (2) 新生上皮が創の 25%未満を覆っている 153 例、23%
- (3) 新生上皮が創の 75~100%近くを覆っている 88 例、13%
- (4) 新生上皮が創の 50~75%未満を覆っている 74 例、11%

E. 褥瘡の詳細の考察

褥瘡の発症が最も多い部位、いわゆる好発部位は仙骨部であり、48%で最も多い。次いで下肢 13%、大転子 11%、腸骨稜 10%の順番であり、坐骨部は 6%であった。

褥瘡の数については、褥瘡が 3ヶ所、4ヶ所以上あるものが 81 例で、12%もあった。これらは全身状態も非常に重症であることが推定される。

深さとしてはステージⅢが 44%で最も多く、次いでステージⅡが 29%であった。

体位変換の変更（褥瘡発症前における変更）がありは 49%で、褥瘡発症前に体位変換の変更があったことがわかる。

初期に壊死組織があるために深さが不明であった症例が 36 例、6%あり、また、褥瘡に 75~100%近く壊死組織がある症例と、創面全部が厚い壊死組織に覆われている症例を合わせると 79 例、12%であった。これらは深さの診断ができない症例であると推定される。褥瘡の創面に壊死組織が少しでも残っている症例は、全症例中 259 例、40%であった。これは、褥瘡の治療の際にもっと積極的に壊死組織を除去をするよう啓発する必要がある。

辺縁の 18 cm以上の範囲に発赤または腫脹がある症例が 4 例、1%にあり、非常に重症の感染症をひきおこしている症例があることを推定させる。

全身的に発熱があるが、22 例、3%もあり、感染が重度となって全身的発熱を起こした症例もあり、注意を喚起する必要がある。

今後の課題

1. ステージⅣの深い症例が 166 症例、25%もあるということは、治療の際に手術も含めてどのような治療法を選択するのが最も適切であるかを検討する必要がある。
2. 褥瘡にポケットがあるものは 46%もあり、またその中で奥行が 10 cm以上ある褥瘡が 32 例、5%もあり看護の重要性を認識させるべきである。

褥瘡にポケットが発生するのは、荷圧と皮膚・組織のズレの複合要因の結果であり、これは看護・介護によってのみ改善され予防される。従って、看護・介護の「あり方」について啓発しなければならない。

3. 褥瘡治療において、壊死組織除去に対する認識が若干不十分であり、壊死組織除去の必要性をもう少し強く訴える必要がある。
4. 褥瘡周辺に炎症がある症例が 169 例、約 27 % にあった。これは、褥瘡の創は単なる汚染のみでなく菌の感染にも起きていることを示しており、褥瘡治療の際に注意すべきである。また初期の治療計画を立てる時も、このような炎症が 27 % にあることについて考慮しておく必要がある。

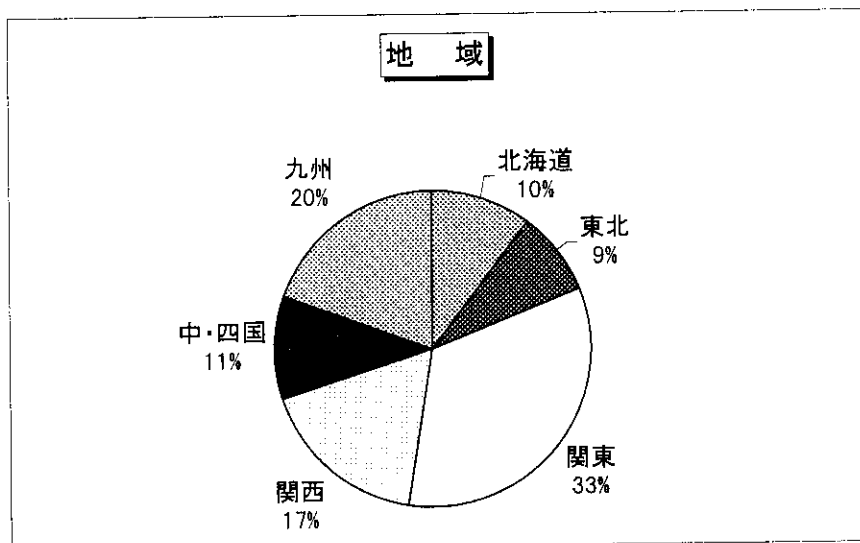
本邦における褥瘡患者655症例の 現状と治療法の実態

2. 集計結果、表とグラフ

A.患者の基本的事項

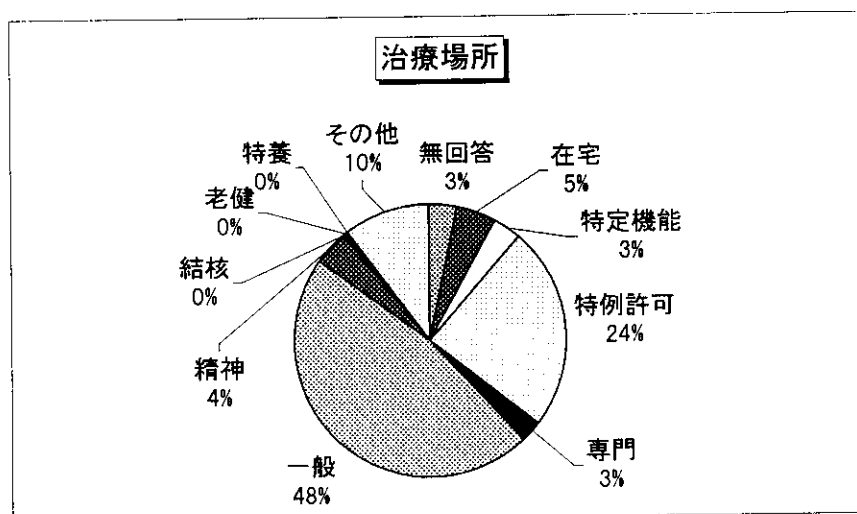
1.地域

地域							
	北海道	東北	関東	関西	中・四国	九州	総計
総計	67	57	220	114	69	128	655



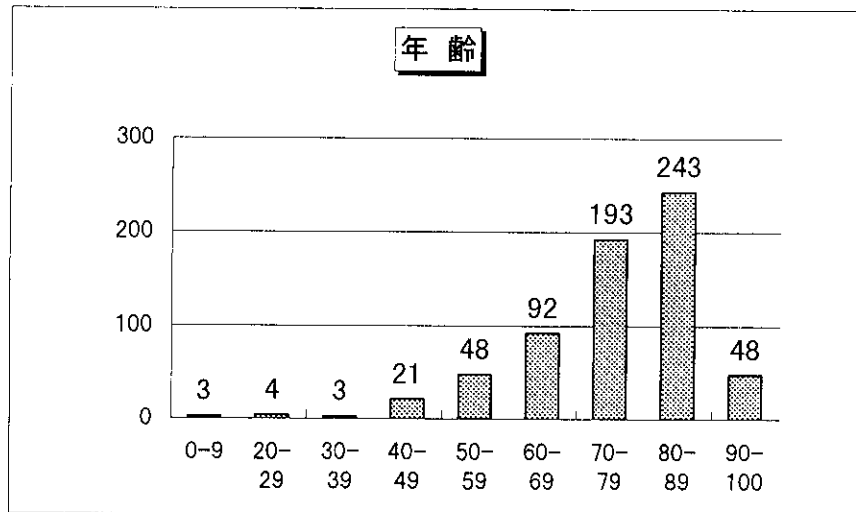
2.治療場所数

治療場所											
無回答	在宅	特定機能	特例許可	専門	一般	精神	結核	老健	特養	その他	総計
21	32	21	158	18	307	27	1	2	1	67	655



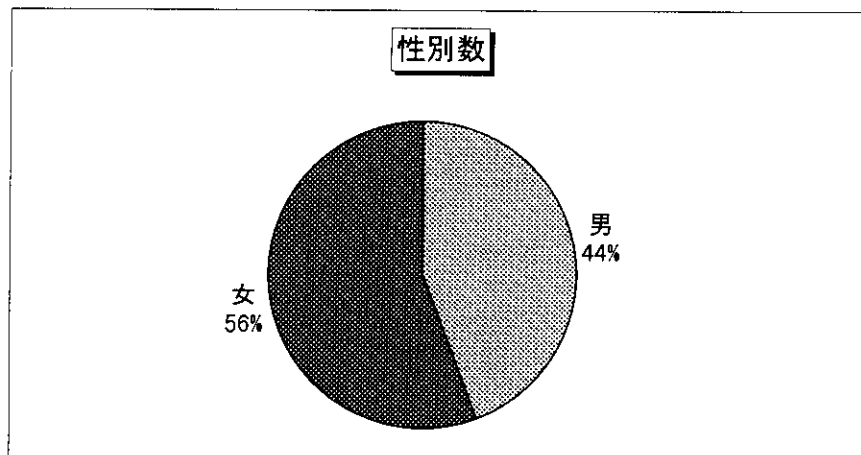
3.年齢

年齢数	年齢									総計
	0-9	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-100	
計	3	4	3	21	48	92	193	243	48	655



4.性別数

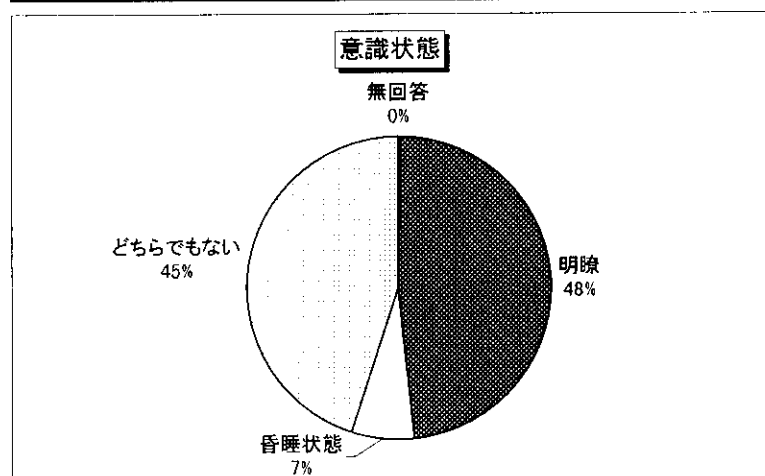
性別数							総計
	男	女					
計	289	366					655



B.身体状態

1.意識状態

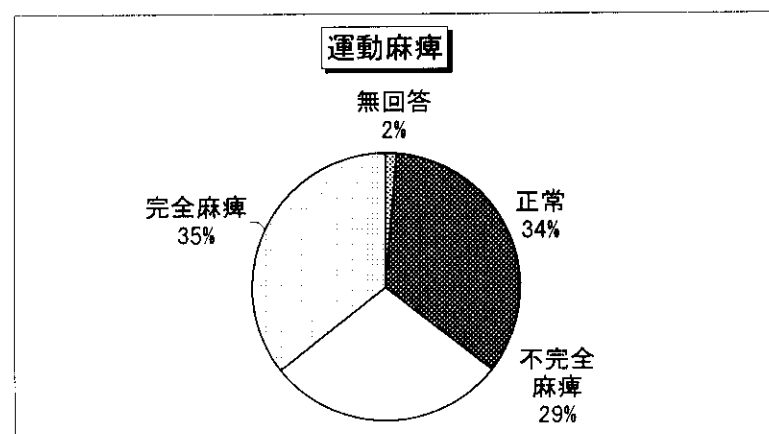
年齢	意識状態				総計
	無回答	明瞭	昏睡状態	どちらでもない	
無回答	0	2	0	1	3
20-29	0	3	0	1	4
30-39	0	1	1	1	3
40-49	0	17	2	2	21
50-59	0	28	6	14	48
60-69	1	43	14	34	92
70-79	0	85	14	94	193
80-89	0	116	5	122	243
90-100	0	21	1	26	48
総計	1	316	43	295	655



2.運動麻痺

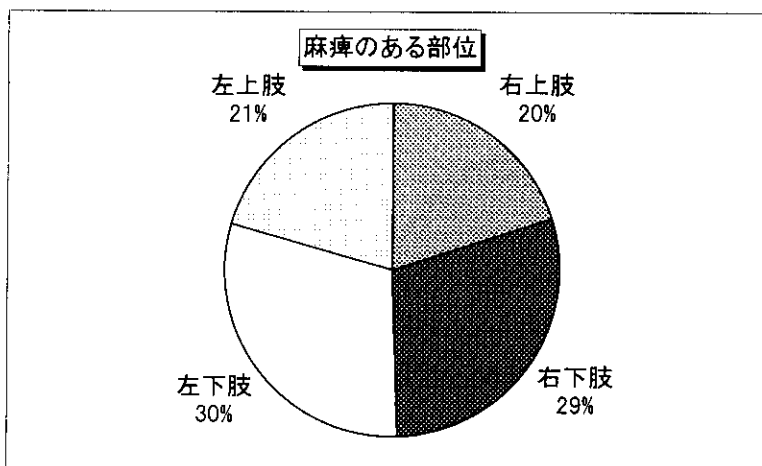
1)運動麻痺の有無

年齢	運動麻痺				総計
	無回答	正常	不完全麻痺	完全麻痺	
無回答	0	1	1	1	3
20-29	0	0	1	3	4
30-39	0	0	0	3	3
40-49	1	8	5	7	21
50-59	0	14	12	22	48
60-69	2	28	24	38	92
70-79	2	52	60	79	193
80-89	4	96	73	70	243
90-100	1	24	14	9	48
総計	10	223	190	232	655



2) 麻痺の部位 (複数記入可)

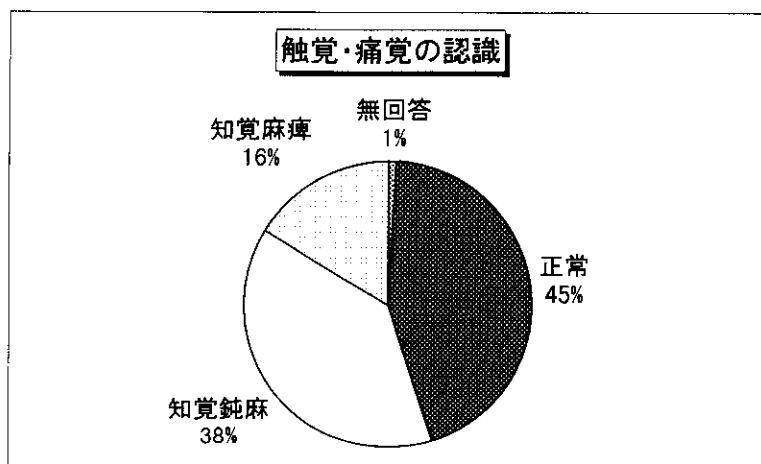
	麻痺のある部位					計
	右上肢	右下肢	左下肢	左上肢		
不完全麻痺	95	140	138	90		463
完全麻痺	133	193	204	144		674
	228	333	342	234		1137



3. 触覚・痛覚の認識

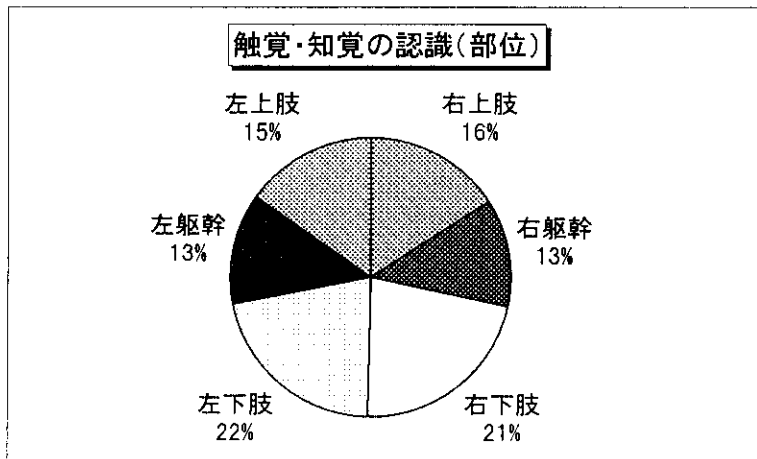
1) 触覚・痛覚の認識

年齢	触覚・痛覚の認識				総計
	無回答	正常	知覚鈍麻	知覚麻痺	
無回答	0	1	2	0	3
20-29	0	1	2	1	4
30-39	0	0	2	1	3
40-49	0	9	5	7	21
50-59	0	20	13	15	48
60-69	1	34	39	18	92
70-79	1	78	85	29	193
80-89	4	115	91	33	243
90-100	0	31	13	4	48
総計	6	289	252	108	655



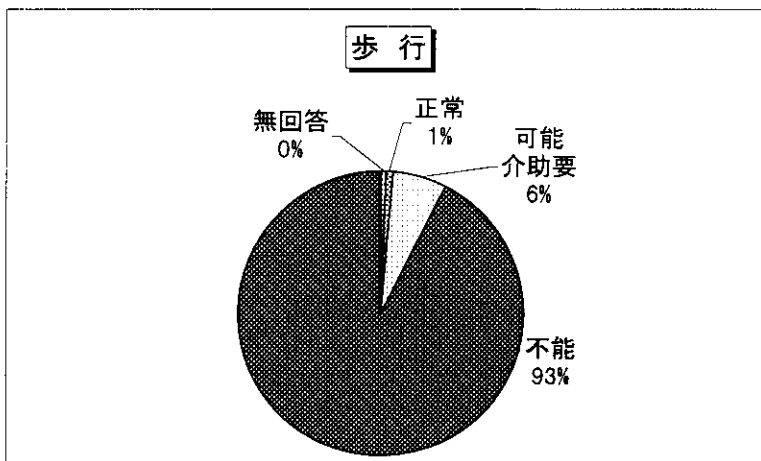
2) 触覚・知覚の認識(部位)(複数記入可)

触覚・知覚の認識(部位)							
	右上肢	右躯幹	右下肢	左下肢	左躯幹	左上肢	計
知覚鈍麻	150	109	199	201	121	152	932
知覚麻痺	60	60	92	88	51	52	403
総計	210	169	291	289	172	204	1335



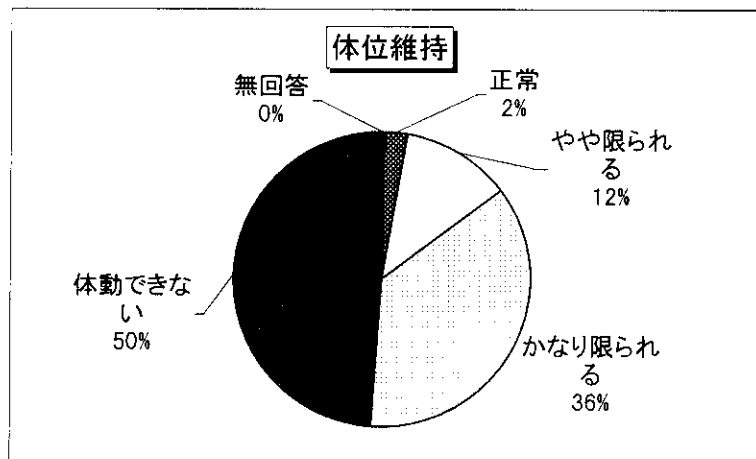
4. 歩行

歩行						
年齢	無回答	正常	可能 介助要	不能		総計
無回答	0	0	0	3		3
20-29	0	0	0	4		4
30-39	0	0	0	3		3
40-49	0	2	3	16		21
50-59	0	0	6	42		48
60-69	2	2	3	85		92
70-79	0	0	9	184		193
80-89	1	2	17	223		243
90-100	0	0	2	46		48
総計	3	6	40	606		655



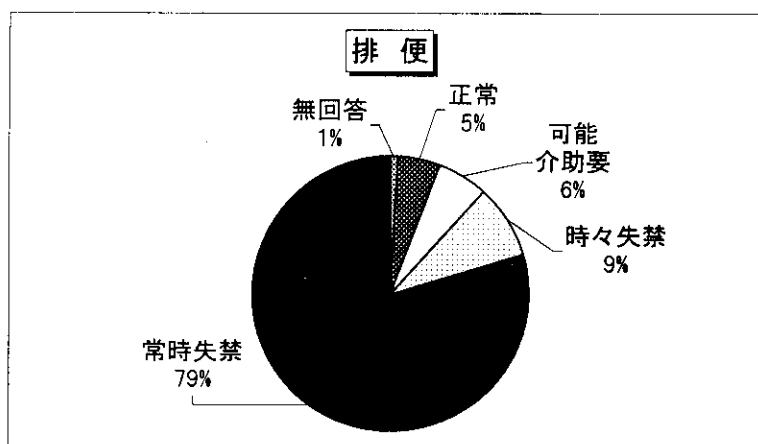
5.体位維持

年齢	体位維持						総計
	無回答	正常	やや限られる	かなり限られる	体動できない		
無回答	0	0	1	0	2		3
20-29	0	0	1	0	3		4
30-39	0	0	1	0	2		3
40-49	0	1	5	8	7		21
50-59	0	1	8	12	27		48
60-69	2	3	8	34	45		92
70-79	0	4	21	60	108		193
80-89	0	7	27	100	109		243
90-100	0	0	7	24	17		48
総計	2	16	79	238	320		655



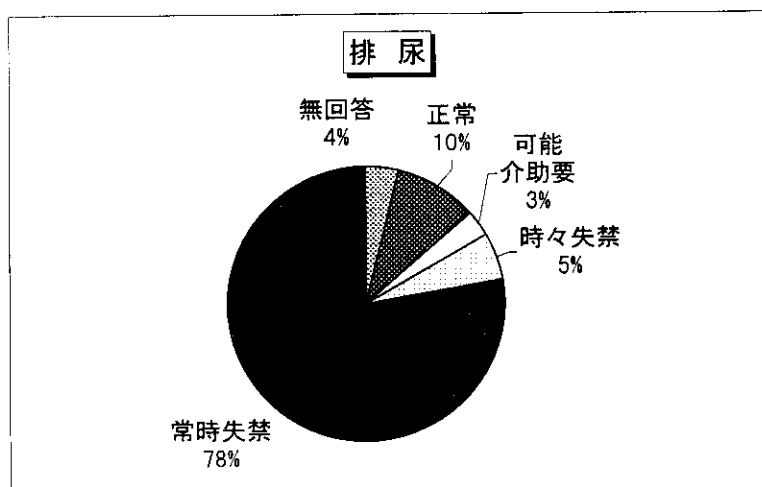
6.排便

年齢	排便						総計
	無回答	正常	可能 介助要	時々失禁	常時失禁		
無回答	0	0	0	0	3		3
20-29	0	0	0	0	4		4
30-39	0	0	0	0	3		3
40-49	0	2	4	4	11		21
50-59	0	3	8	5	32		48
60-69	3	6	7	6	70		92
70-79	2	10	12	16	153		193
80-89	1	12	5	23	202		243
90-100	0	0	1	2	45		48
総計	6	33	37	58	523		655



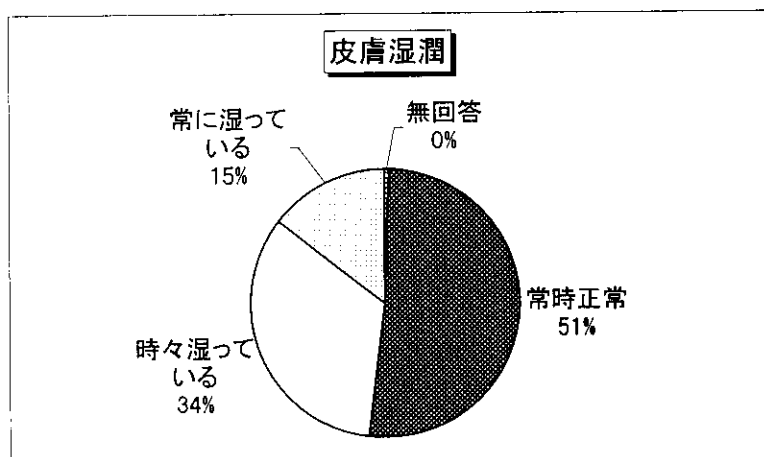
7.排 尿

		排尿										総計
年齢	無回答	正常	可能 介助要	時々失 禁	常時失 禁							
無回答	0	0	0	0	3							3
20-29	0	0	0	0	4							4
30-39	0	1	0	0	2							3
40-49	0	7	3	3	8							21
50-59	3	5	4	2	34							48
60-69	5	8	5	7	67							92
70-79	9	16	7	8	153							193
80-89	8	23	1	14	197							243
90-100	0	4	1	1	42							48
総計	25	64	21	35	510							655



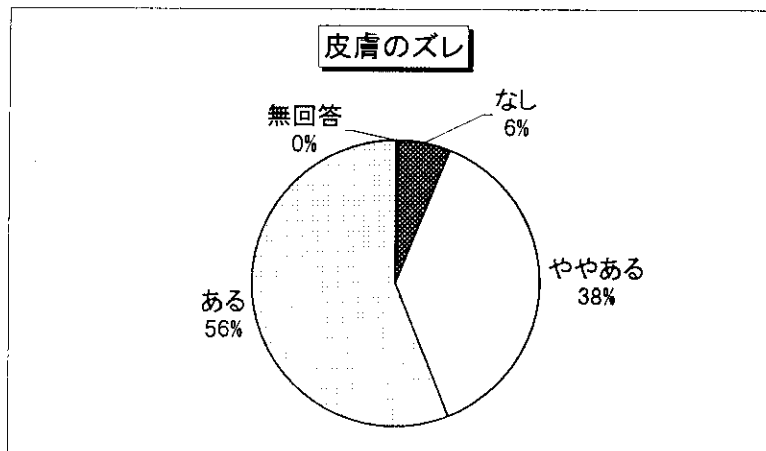
8.皮膚湿潤

		皮膚湿潤									総計
年齢	無回答	常時正 常	時々 湿って	常に 湿って							
無回答	0	2	1	0							3
20-29	0	1	2	1							4
30-39	0	0	2	1							3
40-49	0	10	8	3							21
50-59	0	29	14	5							48
60-69	2	41	32	17							92
70-79	0	91	66	36							193
80-89	1	137	78	27							243
90-100	0	26	17	5							48
総計	3	337	220	95							655



9.皮膚のズレ

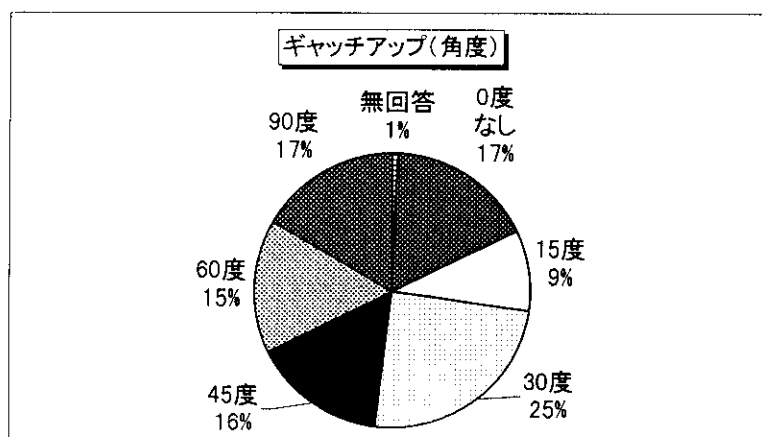
年齢	皮膚のズレ				総計
	無回答	なし	ややある	ある	
無回答	0	0	1	2	3
20-29	0	0	3	1	4
30-39	0	0	1	2	3
40-49	0	1	11	9	21
50-59	0	3	14	31	48
60-69	1	3	43	45	92
70-79	1	13	78	101	193
80-89	0	17	79	147	243
90-100	0	1	17	30	48
総計	2	38	247	368	655



10.ギヤッチアップ

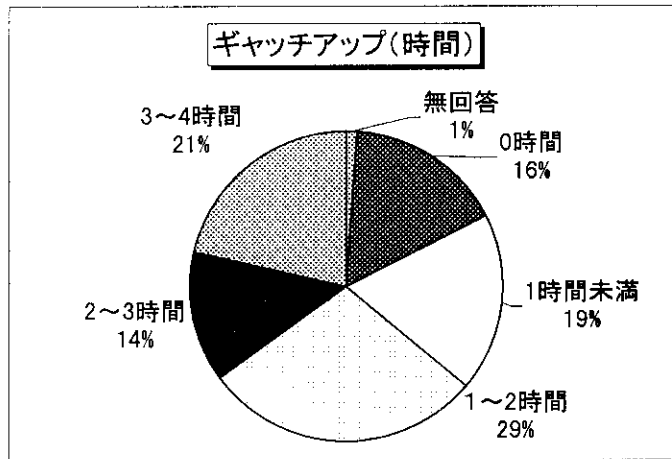
1)ギヤッチアップ(角度)

年齢	ギヤッチアップ(角度)							総計
	無回答	0度なし	15度	30度	45度	60度	90度	
無回答	0	0	0	1	0	2	0	3
20-29	0	0	0	0	2	2	0	4
30-39	0	0	0	1	1	0	1	3
40-49	0	7	3	4	2	1	4	21
50-59	0	12	1	13	8	7	7	48
60-69	2	17	5	24	16	16	12	92
70-79	0	30	17	52	36	24	34	193
80-89	2	41	26	58	36	33	47	243
90-100	0	6	10	8	3	16	5	48
総計	4	113	62	161	104	101	110	655



2) ギャッチアップ(時間)

年齢	ギャッチアップ(時間)							総計
	無回答	0時間	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間		
無回答	0	0	1	0	0	2	3	
20-29	0	0	2	1	1	0	4	
30-39	0	0	0	1	1	1	3	
40-49	0	6	4	6	1	4	21	
50-59	0	12	4	14	4	14	48	
60-69	4	15	16	27	17	13	92	
70-79	1	29	40	52	32	39	193	
80-89	2	40	42	71	32	56	243	
90-100	0	5	14	16	2	11	48	
総計	7	107	123	188	90	140	655	



11.車椅子

年齢	車椅子							総計
	無回答	使用しない	30分未満	30分～1時間	1～2時間	2時間以上		
無回答	0	1	1	1	0	0	3	
20-29	0	0	1	3	0	0	4	
30-39	0	2	0	0	0	1	3	
40-49	0	9	2	3	3	4	21	
50-59	0	16	4	9	5	14	48	
60-69	1	59	7	9	10	6	92	
70-79	0	107	26	25	19	16	193	
80-89	0	123	21	36	34	29	243	
90-100	0	25	6	3	8	6	48	
総計	1	342	68	89	79	76	655	

